

仙台藩 歴代藩主の横顔 第6回

七代藩主 伊達重村

仙台市博物館 学芸普及室 菅原美咲



伊達重村の藩主就任

伊達重村は、寛保二年（一七四二）に伊達宗村の次男として誕生しました。宝暦五年（一七五五）に元服し、重村と名乗ります。翌年父宗村が三九歳の若さで病死したため、重村は一五歳で七代藩主に就任しました。幼年藩主のため、当初幕府からは国目付が派遣されましたが、実際の藩政の相談役には、一関藩主田村村隆むらかみがあたりました。村隆は、五

代藩主伊達吉村の五男で、重村とは叔父と甥の関係にあたりました。

重村の藩政運営は就任当初から、奉行の人事をめぐる派閥抗争が発生し、厳しい船出となります。奉行の対立は、宗村の代から奉行を務める旧派閥と若手奉行の新派閥の対立や、本来は藩政に関与をしない一門衆の介入もあり、複雑な様相を呈しました。こうした状況の中、旧派閥の処罰と人事刷新が行われます。それと同時に家臣からは吉村・宗村父子二代にわたって続いた質素儉約路線からの変更を求められました。

悪化する藩財政

重村の藩政期は、宝暦飢饉に引き続き、幕府から命じられた関東の河川改修工事などにより財政難が続きました。この工事は、重村が幕府から自身の官位昇進を得るために積極的に引き受けた工事でした。また老中や、將軍御側衆おそばしゆうの田沼意次たぬまおきつぐなどの幕府要職や江戸城大奥へも贈答を通じて官位昇進を積極的に働きかけました。このような出費が加わった赤字財政への補填として、領内からの献金や家臣への手伝金を命じたため、次第に藩内の不満も高まります。さらに再び一門衆らが介入して藩政の転換を求め、奉行更迭が行われる政変が起こりました。こうした状況の中、領

内産物の専売制の強化といった財政政策も行われますが、財政難は慢性的に続きました。

無類の狩猟好き

初代藩主伊達政宗は鷹狩りや鉄砲での狩りを好んだことで知られます。重村は政宗とならんで、あるいはそれ以上に狩猟に熱中した藩主ともいえます。重村は国元滞在中、領内各所に頻繁に狩猟に出ており、多い時には一ヶ月の三分の一に及ぶこともありました。安永九年（一七八〇）七月、重村は弟村由むらよし（後に近江国堅田藩主で幕府若年寄になる堀田正敦まさとつ）を連れ、仙台藩領北部を約二〇日間に渡って巡見しました。重村は数十の鷹を従え、一二〇〇羽を超える獲物を得たといえます。その狩猟の成果を記念して胆沢郡六原（岩手県金ケ崎町）という場所に百寄塚を築きました。また、仙台藩の鷹匠を幕府鷹匠の弟子に入れ、吉田流という鷹術稽古を命じるなど、鷹匠の育成にも力を入れました。

重村の隠居とその後

寛政二年（一七九〇）重村は、藩政の改革を嫡子の八代藩主斉村あきむらに託して隠居します。同八年、重村は五五歳で亡くなります。重村の死後藩主の早世が続くなか、重村の正室観心院（近衛氏年子）は、堀田正敦とともに藩政を支える重要な役割を果たすことになりました。

※本稿では仙台市博物館の学術研究機関たる立場から歴史上の人物名に敬称を付しておりません。

仙台市指定文化財 孔雀羽根織込陣羽織 伊達重村所用



特別展 古代アンデス文明展

会期：7月27日(金)～9月30日(日)

紀元前3,000年頃から16世紀のインカ帝国の滅亡まで、アンデス地域で盛衰を繰り返したナスカ、モチエ、シカンなど代表的な9つの文化を中心に、アンデス文明の全貌に迫ります。

【観覧料】一般・大学生1,500円(前売:1,300円)、高校生800円、小・中学生600円
※10名以上の団体は各100円引き。※キャンパスメンバーズ割引は当日券のみ対象。
【開館時間】9:00～16:45(入館は16:15まで)
【会期中の休館日】毎週月曜日(8/6、8/13、9/17、9/24は開館)、9/18(火)、9/25(火)

7/26(木)まで前売券好評発売中! 詳しくは [古代アンデス文明展 仙台](#) [検索](#)



リヤマ(ラマ)が描かれた土器 (ナスカ文化) デイダクティコアントニーニ博物館所蔵

旬の常設展2018夏 仙台藩四代藩主 伊達綱村 一没後300年 ほか 6月12日(火)～9月9日(日)

本年は伊達綱村の三百回忌にあたることから、綱村ゆかりの資料や事績について紹介いたします。

また、戊辰戦争150年を特集するコーナーでは「仙台藩政の揺らぎ」、「戊辰戦争後の仙台と『東北』」の2つのテーマで関連資料を展示します。

仙台市博物館 TEL:022-225-3074 ▶6月の休館日：4日、11日、18日、25日 SENDAI CITY MUSEUM 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) ▶ツイッター @sendai_shihaku